

瀆のちゞ波

○道中心得二十ヶ条

一 旅立の日は、兼て五つ時に立つことゝも、六つ時におきて、それぐの仕度を心がくること肝要なり。たとひ宵のうちに旅の用意は調なるとも、家内へいゝおへいゝなどは其日にならざれば、思ひいださぬこともあり、または立前に一言いゝばすむとおもふことも、朝寝をすれば云落すことあり、兎にも角にも旅立の日は、思ふ時刻より一時ほど早起をする事第一の心を得なす。

一 宿をいでんは、先一里ほどがうちば、そろくとあるき、随分足を大切にすべし。小石・根っ子にまつかぬやうに心がくること、草臥をはぶく心得なす。

一 道の三、四里もゆくときは、草鞋のあんばい、兎角足になじみかぬるもの也。其時は直に紐をきき、むすびかへ、しっかりとばき直すべし。あしきむらじはむらじかゆきかゆべし。草鞋は旅人の為には

②

甲書におなじ、價ををします、みきむらじをせとめはへべし。わらじのあひあしきを、其まゝ歩いて歩行ときは、たちまちわらじひを生じ、其上くだびねをますこと、是に過たるうれひなしと知るべし。

一 道中持の懐中は、袋に入れて首にかへるごと、昔よりのしまたりなれど、兎角人々めんだうにおもひ、常のやうに懐へ入るゝゆえ、振落ことまゝあり。道中は常とちがひ、たびく茶屋へもより、酒などのみ、又は駕籠・馬等このる事もあれば、常の心えにては了簡ちがひのあること多からす。

一 金子は少々たりとも、胴巻へくみて持へし。懐中へはいれざるにと秘事も。其外大切のかき物、又は処がきの類、万一とりおとすときは道中より引かへさねばならぬことあるもの也。是旅行する人のこころがへるべきなり。

一 道中独だつは、猶更僕をつれたりとも、荷物はなるだけかるきかたよし。たとひ二、三日の旅にても、雨具は用意すべきことなり。晴天途中にて俄に雨ふらふらふなれば、其間ぬれぬるものも、其こころえなくいで

一 旅籠屋へつきて湯に入るとき、つれか又供にてもあればよし、ひとりなれば、紙入・胴巻・財布其外小包のるゐは、湯場迄持参し、風呂敷へつゝみ、其上へ着ものをかぶせ、おのれがみえる處へおきて

④

湯にづゐるべし。是其日への旅籠屋へつきての心得也と知べし。
一 駅舎へ着して湯に入り、食事をしまひ、翌日のしたぐを調へなば、宿へたのみて、手燭を一つかりおき、蝋燭を一挺もとめ置べし。深夜ににおよび、便所へゆへの便とす。旅籠屋にゆらしては、雪隠にも燈なきことあり。されば風のうちにつきたらば、たとひ便所の用なく共、

小便所・雪隠をばよく見とおくべき事也。

一 旅舎の女、または女郎をよびて、たはぶるにと、よく懐く懐くむべきこと也。瘡毒・湿気のうねひのみならず、旅中はつゝみを第一とするとなれば、心に念りあるときは、物の破れ、これより初まる。殊に要用の道中は、猶更の事、神共して、掛合事、或は温泉におもむくなども、皆體を大切にせんこととなるべし。しかるを道すがら、不養生をするべからざるべし。

一 獨旅は、とかく留るをいせざる物也。下総の佐原辺、銚子などにては。かたく断りて、容易にはとめず、武家はなほはらのこと也。其時には問屋を頼みて、はたしやへ指圖をして貰へし。これも問屋にゆらして矢張に断りてはあり。左あらば各主へゆきつたのむべし。爰に断りてはあり。及江のつまも獨はとめず。

一 駅をむねむるに、商人はかへん、武家・風流家などは用捨すべし。つゝなり。聊直段を増つても、別れをせざるに安心のむべし。夏など寄合、ひとつ蚊帳に寝、ひとつかきつゝなり。夏など寄合、ひとつ蚊帳に寝、ひとつかきつゝなり。夏など寄合、ひとつ蚊帳に寝、ひとつかきつゝなり。夏など寄合、ひとつ蚊帳に寝、ひとつかきつゝなり。

一 道中にて食事をするに、平日のなかばを食し、また先入ゆきて食すべし。うちむきに沢山に甚だよろしからず。飛脚杯を見るに、いかにもかへん膳し食してめはり。酒も同く平日の三つしを飲むべし。殊に餅菓子・だんご・こはめし・おひさま芋の類、別して飽食すべからず。

⑤

一 駅舎へつきては、その地の方角を聞なため、家しり・雪隠・裏表の口々をみおぼえ、または障子のあけたて自由なるや、ならざるやをこころみおぼへし。近火・盗賊・喧嘩のせつ、うらたへぬ為也。

ためし見たるか、いすれにもこころえがたきこと也。舟に酔ひたる
も、湯氣にあがりたるも、是皆熱をおこして逆上するなれば、
水をのみて即死といふの論、不審なり。今湯氣にあがれ
ば、かほへ水をふきかけ、又常このほせつよき人は、髪をさばきて
水をそそぎかへれば、速くのほせせむがるもの也。舟に酔ひたるに
は、なほさらば冷水をのませ、同じくかほへふきかへること、いたって
よし。其論委しくいふべけれど、短紙のつくす処にあらざれ
ば爰に略す。

(携行すべき薬品類 略)。

河豚 ぶべにあたりたるには、めうばん五分を湯にて用ひ、其あとへ砂糖
湯を三はいほど極めまくしてのむべし。速に治するなり。
蟹 かにあたりたるには、紫蘇二匁へ水二合入、一合にせんじ用ふべし。直に愈る。
鯨 くじらにあたりたるには、九年母の皮をせんじて用ふべし。
蕎麦 そばにあたりたるには、楊梅皮の末五分をゆにて用いて妙なり。
酒 さけにあたりたるには、葛根一匁、縮砂三分をせんじて用ふべし。
餅 もちにあたりたるには、陳皮・神麴・麦芽・蒼木をせんじて用ふべし。
茸 きのことにあたりたるには、やきみやうばん五分を茶にて用ふべし、妙なり。
魚鳥 うにあたりたるには、山査子、葶苈二味をせんじ用て妙なり。